



与野本町小だより

～かしこい子 心ゆたかな子 たくましい子 助け合う子～
ニコニコ・しっかり・美しく（本町の心）

10月号

令和8年9月30日

さいたま市立与野本町小学校

余白

校長 小野圭司

毎日、朝から夕方まで授業が続く生活の中では、誰でも息が詰まりそうになることがあります。そのため学校では、子どもたちが意欲的に学べるよう授業を工夫するとともに、様々な行事を通して学校生活に彩りやメリハリを生み出しています。

行事は、気分転換になるだけではありません。友達の新たな一面に気付いたり、仲間と協力して一つの目標に向かったりする中で、人とのつながりを深める大切な機会にもなっています。

大雨による臨時休業のため延期となりましたが、9月14日（月）に開校155周年・現在地移転100周年記念事業としてバルーンリリースを実施することができました。企画・準備をしてくださいました実行委員の皆様、一緒に見守っていただきました保護者・地域の皆様に心より感謝を申し上げます。

当日は青空の下、色とりどりの風船が高く舞い上がりました。子どもたちは風船が小さく見えなくなるまで空を見上げ、その様子を見守っていました。効率やスピードが重視される時代ですが、このように何かを眺めたり、ゆっくり味わったりする時間も大切ではないでしょうか。子どもたちは、風船を飛ばすその瞬間だけでなく、待つ時間や見送る時間も含めて楽しんでいたように感じます。

今、学校教育は「覚える学び」だけでなく、「考える学び」を大切にする方向へ進んでいます。もちろん、漢字や計算などの基礎的な知識は欠かせません。しかし、それらを基に自分で考え、判断し、表現する力は、これからの社会を生きていく上でますます重要になると考えています。

9月のシルバーウィークも、子どもたちにとって心と体をリフレッシュするよい機会になったのではないのでしょうか。家族との時間や普段できない体験は、子どもたちの成長につながる大切な「余白」です。

私たちの生活には、時に立ち止まり、心をゆったりとさせる時間が必要です。そうした「余白」は、生活に彩りや潤いを与え、新たな意欲や発想を生み出してくれます。子どもたちにも、学びや生活の中で豊かな「余白」を感じられるようにしていきたいと思います。